

リスク回避の波が押し寄せた日本株式

2月9日の日本株式市場では、日経平均株価が前日比918円(5.40%)安の16,085円と大きく下落しました。この背景には、前日の欧米株式市場が大幅に下落し、投資家のリスク回避的な動きが強まり、為替市場で円高が加速したことが挙げられます。

欧州ではマイナス金利の導入後、貸出金利の低下などで銀行にとって低収益環境が続いているなか、ドイツの大手銀行が、自己資本を補強するために発行した社債の利払いを来年行なえない可能性があるとの懸念が高まりました。こうしたことなどから、金融機関の財務不安が強まり、欧米の株式市場は金融株を中心に大幅に下落しました。また、原油安でエネルギー関連企業の財務悪化が懸念されるなか、米国の原油・天然ガスの大手生産会社についての破たん観測記事が流れたことも嫌気されました。

こうした軟調な流れを受け、為替市場では1米ドル=114円台まで円が買われ、円高が輸出企業の採算を悪化させるとの見方から、日本株式市場では輸出企業が大きく下落しました。さらに、安全資産である国債が買われ、長期金利がマイナス水準にまで低下したことで、金融機関の収益を圧迫するとの懸念などから、金融株も下げ足を強めました。

金利低下を背景に、内外の金融株は軟調となっており、発端である欧州ではしばらく神経質な展開が予想されます。ただし、日本の場合、日銀は民間金融機関から預かる日銀当座預金に適用する金利を3段階で設定し、新たに積み増す部分についてのみマイナス金利を適用していることから、ユーロ圏のようにほぼ一律でマイナス金利がかかる状況とは異なり、副作用は少ないとの見方もあります。

日本株式は年初から大幅に下落し、景気減速や企業収益の鈍化懸念を概ね織り込みつつあるとみられ、今後、海外市場が落ち着きを取り戻せば、企業業績が堅調な優良株を中心に押し目買いの動きが広がることで、株価も持ち直すかと期待されます。

日本株式と円相場(対米ドル)の推移

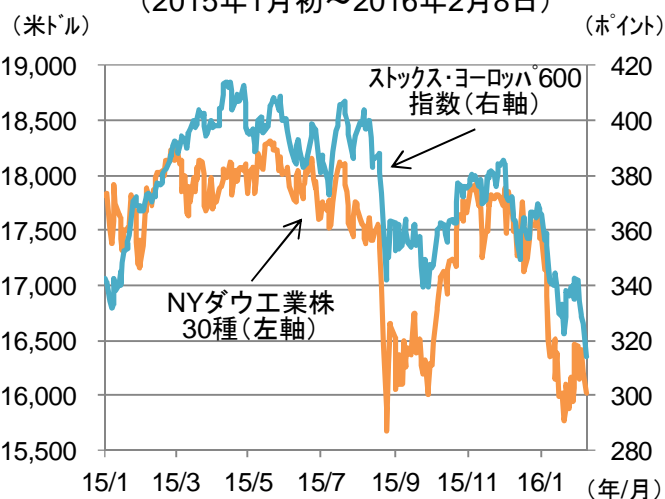
(2015年1月初～2016年2月9日※)

※円相場は日本時間16時時点



米国株式と欧州株式の推移

(2015年1月初～2016年2月8日)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。